



社会貢献活動

富士通グループは、
豊かで夢のある未来の実現に向けて、
多様な社会貢献活動を展開しています。

社会貢献活動の考え方

富士通グループは、豊かで夢のある未来の実現に向けて、ICT を活用してお客様・地域社会・世界の人々と新たな価値や知恵を共創し、地球と社会の持続可能な発展に貢献したいと考えています。

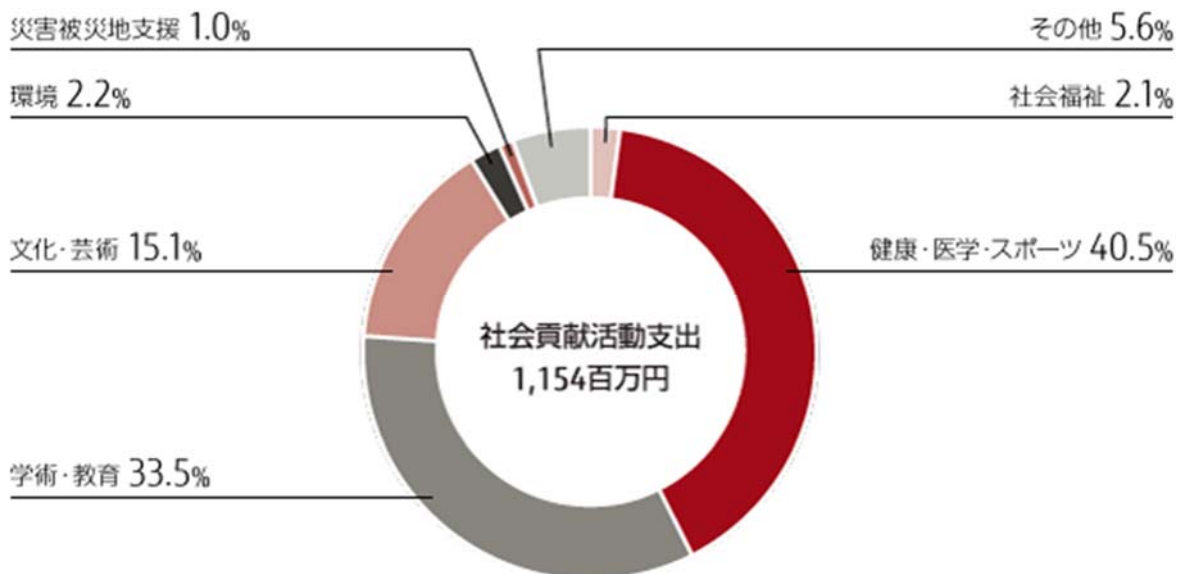
社会貢献活動においては、「ICT の裾野の拡大」「挑戦の支援」「地域との共生」「環境」の4つを柱に、多種多様なステークホルダーと連携し、グループ全社員が積極的に参加して活動を展開しています。

なお、活動の活性化とベストプラクティスの共有を目的に、活動の実施記録を社内システム上で蓄積・公開し、そのデータベースを活用した社内表彰を実施しています。



社会貢献活動に関わる支出

富士通が 2016 年度に社会貢献活動に関わる費用として支出した金額は、以下のとおりです。



社員のボランティア活動支援

富士通グループは、社会に対する社員一人ひとりの積極的な貢献活動を支援するため、ボランティア活動支援制度を整備しています。また、各事業所が所属する地域コミュニティをより良いものとするため、地域の特性に沿った各種活動プログラムを展開しています。

富士通では、2016 年度、40 名が積立休暇を取得し（延べ 118 日）、ボランティア活動を行いました。

ボランティア活動支援制度

社員のボランティア活動を支援するため、以下の制度を設けています。

- ・ 青年海外協力隊／シニア海外ボランティア参加のための休職制度：最高 3 年間
- ・ 積立休暇：年 5 日支給とし、最高 20 日まで積立可（ボランティアを含む特定の目的に利用）

学術・教育の振興、文化・協賛活動

富士通 JAIMS の運営



富士通JAIMSは、富士通の提唱により非営利な教育活動を目的に設立された財団法人で、大学院レベルの教育を提供しています。その母体である「JAIMS」は、1972年に日米の架け橋となる人材の育成を目的として、東洋と西洋の文化が融合するハワイに設立されました。以降、55カ国から約23,000名の卒業生を輩出したほか、2006年には外務大臣表彰を受賞するなど、JAIMSの活動は国際交流を促進させ、対外的にも高く評価されてきました。



2012年7月には、近年グローバルビジネスで特に重要な役割を果たしているアジアとの連携を強化するために「一般財団法人富士通JAIMS（以降、富士通JAIMS）」を日本に設立し、2013年4月からは富士通JAIMSを本部として新たな形で活動をスタートしました。バーチャルなマルチキャンパス・ネットワークというユニークな構想の下、ハワイキャンパス（JAIMS）、アジアのパートナーとともに柔軟かつ多角的な知の連携を推進することで、「アジア・パシフィック地域の人材開発と知の共創による新たなコミュニティ開発に貢献する」というミッションを実現していきます。

富士通JAIMSが提供する主なプログラムは、知識創造理論の世界的権威である野中郁次郎氏（一橋大学名誉教授）のビジョンに基づき開発した国際マネジメントプログラム「Global Leaders for Innovation and Knowledge: GLIK」です。「地域に密着しながらグローバルな視点で、より善い未来を自らの手で創るイノベーションリーダーの育成」を目的に、短期間（約3.5カ月）にアジア・パシフィック地域（日本・米国[ハワイ]・シンガポール・タイ）で学び、変化する状況の中で本質を洞察しながら判断し実行する力とリーダーシップを鍛えます。東アジア・東南アジアを中心とする各国からの優秀な参加者との切磋琢磨、各分野で実績をもつ先鋭の講師陣や、各国での有識者との対話などの実践を通じ、グローバルに通じる感性・知性を磨けるだけでなく、グローバルビジネスのフロントに立つリーダーに必要な視野と突破力を体得することができます。本プログラムは、2013年4月に開講して以来、年2回開催し、日本、米国、アジア・パシフィック諸国等、15カ国から、140名の修了生を輩出しています。

富士通は、運営資金の拠出に加えて活動を支援する組織を社内に設置し、富士通JAIMSの活動を全面的にバックアップするだけでなく、富士通の実践知・技術・ノウハウを活動に織り込むことで、富士通JAIMSと一体となって、学術・教育の振興、国際交流を通じた社会貢献活動を推進しています。

・一般財団法人富士通 JAIMS

www.jaims.jp

富士通奨学金制度の運営



1985年、富士通は創立50周年を記念して、日本の文化・社会・経営手法を深く理解し、将来にわたって日本と世界をつなぐビジネスエリートを育成する目的で、「富士通奨学金制度」を創設しました。累計受給者は521名に上っています（2017年4月1日現在）。

当初はJAITSで日本経営を学ぶ参加者への奨学金制度として始まりましたが、現在は日本以外のアジア太平洋地域18カ国のビジネスパーソンを対象に、富士通JAITSのGLIKプログラムに参加する機会を提供しています。

この奨学金には、毎回多数の応募がありますが、英語力、業務経験などに加え、自国の発展に寄与したいという意志などを踏まえて奨学生を選定しています。富士通は、アジア太平洋諸国で事業展開する富士通グループ会社と連携して募集活動を共同で実施するなど、ビジネスリーダーの育成、文化交流や相互理解の促進を通して、自国や自コミュニティへの貢献を考える人たちに奨学金を授与し、国際地域社会に根付いた教育の提供を通して社会に貢献しています。



富士通奨学金受給者たち

・ Fujitsu Scholarship（英文サイトのみ）

<http://www.fujitsu.com/scholarship/>

「数学オリンピック」「情報オリンピック」の支援



富士通は、公益財団法人「数学オリンピック財団」および特定非営利活動法人「情報オリンピック日本委員会」の活動を支援し、将来の社会の発展を担う貴重な人材の発掘・育成に寄与しています。

数学オリンピック財団は、国際数学オリンピック（IMO）への日本代表選手の選抜、派遣を通じて数学的英才の発掘および伸長を図るとともに、国際的視野での数学教育発展に貢献することを目的として、1991年に設立されました。富士通は、同財団の設立にあたって、他2社・1個人とともに基本財産を拠出しました。また、IMOへの日本代表選手の選抜大会である日本数学オリンピック（JMO）や日本ジュニア数学オリンピック（JJMO）における成績優秀者への副賞提供などの支援を行っています。一方、情報オリンピック日本委員会は、日本の数理情報科学分野を支える人材養成に寄与することを目的として2005年に設立され、中高生を対象としたプログラミングコンテストである国際情報オリンピック（IOI）への参加および協力事業を展開しています。富士通は賛助会員として、その運営を支援するとともに、IOIへの日本代表選手の選抜大会である日本情報オリンピック（JOI）における成績優秀者に副賞を提供しています。



第16回情報オリンピック表彰式

高専生を対象としたプログラミングコンテストを支援



挑戦の支援

富士通は、全国高等専門学校プログラミングコンテストを特別協賛企業として支援し、「富士通企業賞」を設け、受賞チームに富士通製パソコンを贈呈しています。

2016 年度は縄跳びにセンサーをつけて音楽と連動させることで、楽しく運動を続けられるシステムを開発した茨城工業高等専門学校に富士通企業賞を贈りました。

今後も若き ICT 技術者の育成を支援していきます。



第 27 回全国高等専門学校プログラミングコンテストにて「富士通企業賞」を受賞された茨城工業高等専門学校の皆さん

「富士通キッズプロジェクト：夢をかたちに」



ICTの裾野拡大

「富士通キッズ：夢をかたちに」子ども向けサイトは以下をご参照ください。

<http://jp.fujitsu.com/about/kids/>

文化・協賛活動



ICTの裾野拡大



地域との共生

富士通の文化・協賛活動は以下をご参照ください。

<http://www.fujitsu.com/jp/about/resources/advertising/event/index.html>

スポーツを通じた貢献活動

富士通グループでは、スポーツを通じた健全な社会活動を展開しています。陸上競技部、アメリカンフットボール部「フロンティアーズ」、女子バスケットボール部「レッドウェーブ」からなる富士通のスポーツ活動は、富士通の積極的なイメージを体現する組織として、日々その技術の向上に努めています。

陸上競技部



富士通の陸上競技部は、「世界で戦える選手を育成」をスローガンに、1992 年のバルセロナ 1992 オリンピックから 2016 年のリオデジャネイロ 2016 オリンピックまで 7 大会連続で日本代表選手を輩出しています。また、2008 年には、JOC スポーツ賞「トップアスリートサポート賞」最優秀団体賞を受賞、「実業団陸上 of The Year」最優秀チーム賞「経団連会長杯」を 2016 年・17 年と 2 年連続で受賞するなど、1990 年の創部以来、常に日本陸上界をリードしてきました。所属するトップアスリートたちは全国各地で行われる陸上教室にも積極的に参加し、日本の陸上競技力の向上とスポーツの発展に寄与しています。

2016 年は、リオデジャネイロ 2016 オリンピックに 4 名の日本代表選手を輩出し、男子棒高跳で澤野大地選手が 7 位に入賞。ニューイヤー駅伝には 26 年連続で出場。また男子 20Km 競歩において鈴木雄介選手が世界記録を樹立するなど、日本陸上界を牽引する存在として活躍しています。

・富士通陸上競技部

<http://sports.jp.fujitsu.com/trackfield/>



挑戦の支援



地域との共生



2017年2月に参加した「富士通スタジアム川崎スポーツフェスタ」の様子

© Nano Association

アメリカンフットボール部「フロンティアーズ」



富士通のアメリカンフットボール部は、1985 年に創部され、「アマチュアリズムで仕事もフットボールも日本一に」をスローガンに、日本アメリカンフットボール界の開拓者となることを誓い「FRONTIERS（フロンティアーズ）」と命名されました。

社会人東日本選手権である「パールボウル」では、2003 年の初優勝を含め、3 度の優勝。2014 年は、社会人日本一を決める「JAPAN X BOWL」で優勝を飾り、初出場の日本選手権「RICE BOWL」にも勝利し悲願の日本一を獲得。2016 年には 2 度目の優勝を果たし、名実ともに X リーグのトップチームとして活躍しています。

また地域貢献活動においては、活動拠点を置く川崎市から「かわさきスポーツパートナー」に認定され、2010 年からは川崎市内の小学生を対象に安全に気軽に取り組めるフラッグフットボールを体育の授業で指導するなど普及活動



挑戦の支援



地域との共生



2016 年度に川崎市内の小学校で実施された「ふれあい教室」

© Nano Association

に取り組んでいます。

・アメリカンフットボール部「FRONTIERS（フロンティアーズ）」

<http://sports.jp.fujitsu.com/frontiers/>

女子バスケットボール部「レッドウェーブ」



富士通の女子バスケットボール部は、1985 年の創部後、赤い波が強豪チームを脅かす存在となることを目指して「RedWave（レッドウェーブ）」と命名。2006 年の第 72 回全日本総合バスケットボール選手権（皇后杯）で初優勝を飾ると、2008 年まで 3 連覇を達成し、2007 年度の第 9 回 W リーグ（WJBL 2007-08）では、悲願の初優勝を果たしました。

2005 年以降は 12 年連続でプレーオフに進出しているほか、2015-16 年シーズンは 2 年連続ファイナル進出し W リーグ準優勝。2017 年は全日本総合選手権で 10 年ぶりに決勝戦に進出、準優勝を果たすなど、W リーグ屈指の強豪チームに成長しています。リオデジャネイロ 2016 オリンピックではチームから初めて 2 名の代表選手を送り出し、8 位入賞に貢献しました。

社会貢献活動では、活動拠点を置く川崎市から「かわさきスポーツパートナー」に認定され、川崎市内の小学生を対象に体育の授業で実技指導を行う「ふれあい教室」を開催し、地域でのスポーツの振興とバスケットボール界の底辺拡大に努めています。この「ふれあい教室」は、2004 年から 12 年間継続しており、2016 年度は 10 回実施しました。

・女子バスケットボール部「RedWave（レッドウェーブ）」

<http://sports.jp.fujitsu.com/redwave/>



挑戦の支援



地域との共生



2016 年度に川崎市内の小学校で実施された「ふれあい教室」

© Nano Association

川崎フロンターレの活動を支援



地域との共生

富士通がオフィシャルスポンサーを務める川崎フロンターレは、1999 年に J リーグに加盟。川崎市をホームタウンとしてプロサッカー事業の展開、地域の青少年の育成やスポーツ文化発展に貢献する活動に取り組んでいます。

また同チームは、2011 年の東日本大震災直後から「Mind-1 ニッポンプロジェクト」を立ち上げ、被災地の中長期的な復興支援活動に継続的に取り組んでいます。また、2015 年 9 月には、支援活動を行ってきた陸前高田市と「高田フロンターレスマイルシップ」という友好協定を結びました。支援からお互いに支え合い笑顔になれる関係を目指し、これからも活動していきます。

・川崎フロンターレ

<http://www.frontale.co.jp/>



2016 年度に実施した陸前高田サッカー教室

©KAWASAKI FRONTALE

国際支援、災害支援

飲料販売を通じた熱帯雨林再生活動の支援



地域との共生

富士通グループでは、社会貢献・環境活動の取り組みの一環として、富士通のプライベートブランド飲料を社員向けに販売し、その売上の一部を「富士通グループ・マレーシア・エコ・フォレストパーク」における熱帯雨林再生活動に充てています。同飲料は2009年の販売開始から2016年度末までの累計で約293万本を売り上げ、活動推進に寄与しています。

グループ社員による社会貢献活動



地域との共生

富士通グループでは、多くの事業所でペットボトルキャップやプリペイドカード、切手、本、CDなどを回収し、それらの収益金をポリオワクチンや緑化の苗木、国際協力への寄付に活用するなど、グループ各社の社員が身近な社会貢献活動に自主的に取り組んでいます。

南アジアでボランティア活動を展開する国際NGO「シャプラニール」（市民による海外協力の会）を支援する活動として、書籍・DVDを回収・売却する「ステナイ生活」を継続的に実施しています。

自然災害による被害への支援



地域との共生

富士通グループは、自然災害による被害の復興に役立てていただくため、義捐金寄付などの支援を行っています。

2016年度は4月・10月にそれぞれ発生した熊本地震、2017度は7月に発生した九州北部の豪雨によって被害を受けた被災地に向け、国や地方自治体に義捐金を寄付しました。

2017年度

- ・九州北部の豪雨による被害への支援について

<http://pr.fujitsu.com/jp/news/2017/07/14-2.html>

2016年度

- ・熊本地震 震災復旧・復興支援に向けてクラウドサービスを提供

<http://pr.fujitsu.com/jp/news/2016/05/2-1.html>

- ・熊本地震被害への支援について

<http://pr.fujitsu.com/jp/news/2016/04/19-1.html>

2015年度

- ・関東地方、東北地方の豪雨による被害への支援について

<http://pr.fujitsu.com/jp/news/2015/09/11-1.html>

2014 年度

- ・広島市土砂災害による被害への支援について
<http://pr.fujitsu.com/jp/news/2014/08/22-1.html>
- ・中国雲南省地震による被害への支援について
<http://pr.fujitsu.com/jp/news/2014/08/13-1.html>

2013 年度

- ・フィリピン台風 30 号被害への支援について
<http://pr.fujitsu.com/jp/news/2013/11/15-1.html>
- ・中国四川省地震による被害への支援について
<http://pr.fujitsu.com/jp/news/2013/05/1-1.html>

2011 年度

- ・タイ洪水による被害への支援について
<http://pr.fujitsu.com/jp/news/2011/10/27-3.html>
- ・東日本大震災による当社グループの対応について
<http://pr.fujitsu.com/jp/news/2011/04/20-1.html>

2010 年度

- ・東北地方太平洋沖地震の支援と対応について
<http://pr.fujitsu.com/jp/news/2011/03/13.html>
- ・ニュージーランド大地震による被害への支援について
<http://pr.fujitsu.com/jp/news/2011/03/2-1.html>
- ・中国青海省大地震による被害への支援について
<http://pr.fujitsu.com/jp/news/2010/05/25.html>
- ・宮崎県口蹄疫による被害への支援について
<http://pr.fujitsu.com/jp/news/2010/05/24-1.html>

2016 年度の活動事例

「食と農業」の出前授業



ICTの裾野拡大

農村の過疎や農業従事者の高齢化、後継者不足が恒常化してきており、日本の食を守る農業の担い手が昨今の5年間で2割減少^(注)しています。このような課題に対し、富士通では日本の農業の活性化、そして豊かな食の未来のためにICTの力で貢献したいと考えています。

例えば、未来を担う小中学生などを対象とした次世代教育支援の一環として、ICTと農業の融合で誕生した「食・農クラウド Akisai」を活用した「会津若松 Akisai やさい工場」の取り組みについて、工場見学の受け入れや出前授業を行っています。授業では、様々な高付加価値野菜を開発し、場所や環境を選ばない野菜作りを広げていくこと、また食糧生産に従事する人々の工夫や努力、ICTの力によって食の喜びや未来の農業を支えていけることを子どもたちに学習してもらっています。授業を通じて「農業に関心が高まった」「こんな農業ならやりたい」「こんな野菜を作りたい」と様々な子どもたちの感想が寄せられました。当社は、今後もこのような未来に夢を感じられる次世代教育支援を続けていきます。

(注) データ出典元：農林水産省「2015 年農林業センサス報告書」より



出前授業の様子

聴覚障がい者向けパソコン教室「Deaf-PC カフェ」の開催



ICTの裾野拡大



挑戦の支援



地域との共生

国内における障がい者の民間企業実雇用率は、現在、1.92%^(注)であり、法定雇用率 2.0%に届いていません。そのような中、株式会社富士通ソフトウェアテクノロジーでは 2006 年から公益社団法人静岡県聴覚障害者協会様と協働し、聴覚障がい者向けに「Deaf-PC カフェ」を開催しています。

「Deaf-PC カフェ」は、昨今の就労においてパソコン技術が重要になっていることから、聴覚障がい者の ICT に関する疑問を解決する場として公開しているものです。参加者がお茶やお菓子を気軽に持ち寄りながらカフェ形式で「楽しく学べる」ことをモットーとしており、手話サークルなどの手話関係者も参加し、手話でコミュニケーションができる場としても活用されています。今後も「Deaf-PC カフェ」の活動を通じて、聴覚障がい者のデジタルデバイドの解消を目指し、貢献していきます。

(注) データ出典元：厚生労働省「平成 28 年障害者雇用状況の集計結果」より



「Deaf-PC カフェ」の様子

貧困地域でのデジタルアクセス普及



ICTの裾野拡大



挑戦の支援



地域との共生

富士通南アフリカは、南アフリカ共和国の中でも最も貧しい地域に住む人たちが、生活を豊かにするテクノロジーに接することができるよう、全力をあげて取り組んでいます。約 3 万 5,000 人が住むヨハネスブルグのクリップタウンにおいて、弱い立場にある子供たちにデイケア・サービスを提供している慈善団体リトル・ローズ・センター (Little Rose Centre) とともに支援を行っています。

貧困と劣悪な生活環境のために、クリップタウンの人々は高い失業率など多くの問題に直面しています。同センターと富士通

南アフリカは、主に募金活動や寄付金集めなど短期的な支援を提供するために協力していますが、富士通南アフリカは IT ハブの設置など、デジタルアクセス普及の長期的かつ持続的な支援も行っています。IT ハブがあれば、地域の人々がコンピュータやインターネットにアクセスできるようになります。富士通南アフリカの社員たちもボランティアの IT 講師として、クリップタウンの子供たちに大切なオンライン・スキルを教えています。そこではグレード 11 と 12 の生徒を対象とした訓練プログラムをはじめ、住民向けの求人情報などのサービスも提供されています。富士通南アフリカはこれからも、地域住民のデジタルアクセスを確保するために、リトル・ローズ・センターと協力していきます。



IT ハブ

難民の受け入れ活動を支援

富士通フィリピン・グローバル・デリバリ・センターは、フィリピンの貧困地域を対象とした援助活動に積極的に取り組んでいます。ホームレスや親に捨てられた子どもたちに家を提供しているツロイ財団（Tuloy Foundation）との協力関係の下、実践的な訓練と技能習得を中心としたカリキュラムによる教育を提供しています。ツロイ財団の財源は寄付によって賄われていますが、富士通フィリピン・グローバル・デリバリ・センターは資金と教育の両面で同財団の有力なドナーとなっています。

過去 3 年間に 30 人以上の富士通フィリピン・グローバル・デリバリ・センター社員がツロイ財団の活動に参加しており、毎年 3 回以上現地を訪問するほか、各地で数多くの資金調達活動を行っています。富士通の社員たちは募金活動を通じて資金を集めるほか、学用品や衣類、食べ物などの寄付も行っています。これまで多くの社員がツロイ財団で誕生パーティを開き、子供たちに楽しい時間とケーキをプレゼントしています。また技術部門に実習生を受け入れる職業体験も提供しており、現地で高く評価されています。



子供たちへの支援

アフリカでデジタル学習を広めるためのソリューション開発

富士通オランダは、デジタルアクセスおよびデジタルワーキングの支援に力を入れています。オランダには、ケニアとタンザニアにおいて、デジタル学習を通じて生徒たちに将来の準備をさせる事業に取り組んでいる慈善団体バイアフリカ（Viafrica）の拠点がおり、富士通オランダはその活動を支援しています。

バイアフリカは教育プロジェクトで使用するタブレットの数を増やす予定ですが、アフリカの多くの地域では電力供給やインターネット接続が不安定であり、その活用がうまくいくとは限りません。そのため富士通オランダでは、この課題を解決するために IT スペシャリストやアーキテクトたちがタブレットに Wi-Fi アクセスポイントや Android ソフトウェア配信、ウェブサーバー、メール機能を搭載した Raspberry Pi ミニサーバーを開発しました。そして現地に配備される 100 台のタブレット端末でそのプロトタイプが使えるようにしました。これは SD カードを替えることで新機能を実装することができるため、タブレットをインターネットに接続しなくてもインストールしたり使ったりすることができます。このソリューションは、スワヒリ語で「教育」を意味する「Elumi Pi」と呼ばれています。



Elumi Pi